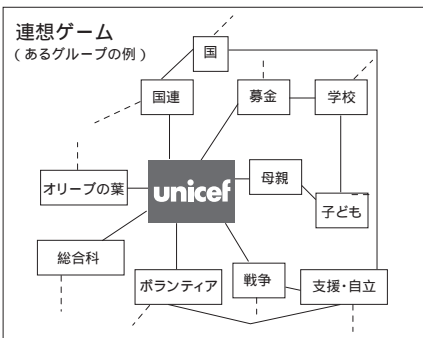


『総合的な学習の時間』に ユニセフを生かすために ユニセフセミナー/「開発のための教育」ワークショップ報告

3月27日(月)「第10回ユニセフセミナー(午前)」「第10回『開発のための教育』ワークショップ(午後)」を日本ユニセフ協会にて開催しました。2002年より本格的に始まる「総合的な学習の時間」。これにユニセフをどう取り入れることができるか、参加した先生方から積極的なご意見を聞くことができました。

午前中のセミナーでは、学校でユニセフ活動支援を取り上げるためのきっかけをつかんでいたこと、連想ゲームをしました。ユニセフという言葉から連想される言葉、その言葉からさらに連想される言葉を書き出し、ユニセフに対して抱いているイメージを発表しました。「ユニセフ」「戦後の日本」「ミルク」と連想をしたグループなど、この作業から「総合的な学習の時間」にユニセフを取り入れる時のテーマ、入り口はさまざまなおところにあることがわかりました。



続いて茨城県ひたちなか市立中根小学校、武士雅江先生に学校での活動事例を紹介していただきました。視聴覚教材やパンフレット、「開発のための教育」のアクティビティを効果的に取り入れ、6年生が世界の子どもを取り巻く問題やユニセフの活動について主体的に学びながら、「世界の友だちに自分たちができることは何か」という問いについて結論を導き、「世界の人びとに対する理解を深めていった」ようすが生き生きと報告されました。また、日本ユニセフ協会水戸の会からゲストティーチャーを招きそれぞれのテーマごとの質問に答える場を設けたり、保護者も交えてパビリオン方式^{*}の発表会を催したり、他学年に呼びかけて募金活動をしたり、というご報告は多くの先生方の参考になったようでした。

(^{*}パビリオン方式: グループごとに各場所で発表し、参加者はそれを自由にまわりながら発表を見聞きする方法。)

武士先生の活動事例は今春の「ユニセフ活動の手引き」に掲載されています。学習展開計画等の資料をご希望の方は学校事業部までお問い合わせください。



「開発のための教育」ワークショップでもアクティビティ実践の後、「『開発のための教育』を生かした『総合的な学習の時間とは』」というテーマで話し合いを行いました。カードに書いた各人の意見をグループ内でまとめ、似た意見をかためて島にし、小見出しをつけていく「島づくり」の手法を用いながら、それぞれの参加者がセミナー・ワークショップで得たものや考えたことを整理しました。「グローバルな視点というものがあるとしても不可欠だ」「この教育は人間性の教育」などの意見や、「開発途上国に対するステレオタイプを

プログラム

「ユニセフセミナー」(午前)	「開発のための教育」ワークショップ(午後)
あいさつ ユニセフ基礎講座 ・ビデオ「ユニセフと地球のともだち」 ・現地におけるユニセフ活動の特徴/ユニセフ資金の流れ ・「守られている?子どもの権利」 ・世界子供白書が警告する子どもを取り巻く課題 学校でのユニセフ支援活動と総合的な学習の時間 ・連想ゲーム-ユニセフってどんなイメージ?~ ・活動事例発表・意見交換・知る・考える・行動する-	あいさつ 「開発のための教育」の概要説明 現場で実践できるアクティビティの紹介と実践 ・2つの報道(新聞作り) 同じ情報をもとに異なる立場で記事を書いている ・守られなかった権利と守られた権利 ストリートチルドレンの生活をテーマにどのような権利が守られていなかったか、どのような活動が子どもの権利を守るのか、を考える。 話し合い(まとめ) 「島づくり」の手法を用いてどのような「総合的な学習の時間」が考えられるのか話し合う

導かないように注意しなくてはならない」「実際に途上国の子どもと交流するなどは難しく、学校現場での限界の中でどこまでを目標とするか」などの課題の指摘や教員自身が常に広い視野に立ち、研修を積む必要がある」「職員が体験して共通理解をする」など研修の必要性を求める意見もありました。

島づくり(あるグループの例)

何ができるかを考える機会づくり

調べて学んだ内容(知識)をこれからの生活の中にどう生かしていくか。

地球規模での問題(環境問題など)を地球市民として解決していくためにはどうしたらいいのかを考える。

総合的な学習の時間を使って生徒たちにユニセフ活動について説明し、何ができるか一緒に考える。

途上国にとって何が必要であるのかを、また、私たちには何ができるのかを考える。

行動する機会づくり

ユニセフを生かした「総合的な学習の時間とは」「行動を伴うもの」である。ただ世界の現状を学んで終わるのではなく、何ができるのかを考え、行動する時間にすべき。

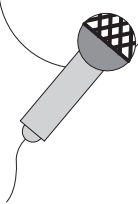
知る機会づくり

「総合的な学習の時間」は「学べることで幸せなんだ」ということを多くの子どもたちに伝える機会にできる。

社会や英語の授業の中に世界の現状について学んだことを取り入れる。

どう生かすか?まず、職員に体験してもらい、共通理解をすることが大切。

参加者の感想



ユニセフそのものを学習させることで「国際理解学習」を進めていくことができる。(高等学校)
もっと教師自身が学んでいく必要がある。(中学校)
「地球市民」という考え方が興味深かった。(中学校)
「子どもの権利条約」カードを使っての活動は総合的な学習の時間に実践してみたいと思います。(中学校)

全体を通して「一人一人が同じ地球人として何ができるか」を考えさせる、そしてそれを具体的な行動までに高めるといった考え方を知ることができて良かったです。(中学校)

他にも実践例の紹介が参考になった、アクティビティをぜひ授業で実践したい、という積極的な感想を多数いただきました。

お知らせ

日本ユニセフ協会では、ユニセフ支援活動や「開発のための教育」を生かした「総合的な学習の時間」について、授業事例・カリキュラム案やご意見などをまとめた資料を作成する予定です。みなさんの学校での活動事例やご意見等ございましたら、ぜひお寄せください。よろしくお願ひいたします。